

令和2年度 薩摩川内市民まちづくり公社事業報告書

本公社は、これまで設立目的に従い、市民の皆様の生涯学習の推進と福祉の向上に寄与する事業を実施するとともに、公益財団法人として薩摩川内市と連携を強化しながら、指定管理の協定及び契約に基づき、芸術・文化、社会体育施設等の管理運営に適切に取り組んでまいりました。

令和2年度は、平成30年度から始まった指定管理受託施設に係る人件費の運営補助金から指定管理料への移し替えと、指定管理料の非精算方式が導入された最終年となり、より一層、自立した運営に取り組んでまいりました。

また、これまで54年にわたり芸術文化の発信施設でありました「川内文化ホール」が、令和3年3月31日をもって閉館したところであります。

こうした中、令和2年度においても、新型コロナウイルス感染症が収束していないことから、管理受託施設の利用制限、及び生涯学習等の諸事業について縮小や中止を余儀なくされましたが、職員一丸となって公社業務を遂行してまいりました。

なお、令和2年度に実施した事業の概要は、次のとおりです。

I 公益目的事業

1 受託施設管理事業

令和2年度の受託施設管理事業につきましては、指定管理者制度等に基づき、薩摩川内市から管理受託する文化施設、社会体育施設等の公共施設の管理運営を実施しました。

川内文化ホール、入来文化ホール、川内歴史資料館、川内まごころ文学館、せんだい宇宙館、サンアリーナせんだい等の集客施設においては、施設の安全点検はもとより、消防・防災訓練を実施し緊急時の利用者の安全誘導等に心掛けるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策を行い、安心して利用していただけるよう取り組みました。

併せて、普通救命講習会への参加や各種実務研修の受講のほか、全職員を対象とした職場づくりに関する研修を実施し、職員の資質向上に努めました。

公園等の施設管理については、安全で快適な利用を図るため、日常的に設備や遊具の点検を実施するとともに、施設の維持・修繕、清掃、花壇の管理、樹木剪定、芝刈り等を効率的に実施しました。なお、抜本的な改修等が必要な管理施設については、市の主管課へ報告・協議を行い必要な対応に努めました。

また、各施設において利用者満足度調査等を実施し、利用者の意見等を踏まえながらよりよい施設の管理運営に努めて参りました。

年度当初から、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、施設利用に影響が広がる中、受託施設で実施した主な管理事業及び利用状況は、次のとおりです。

(1) 薩摩川内市川内文化ホール

大ホール及び会議室関係の利用については、年間を通じて新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。緊急事態宣言の発出に伴う休館、解除後の利用制限のため、利用件数は2,368件で、前年比19.5%の減となり、利用者数も55,938人で前年比56.2%の減となりました。

また、大ホール及び会議室の利用は、それぞれ令和2年12月31日、令和3年3月31日までに終了し、川内文化ホールは閉館しました。

(2) 薩摩川内市入来文化ホール

川内文化ホールと同様に年間を通じて、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。利用件数は279件で、前年比45.0%の減となり、利用者数も7,966人で前年比32.3%の減となりました。

(3) 薩摩川内市川内歴史資料館

令和元年度末から令和2年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた事業の中止や開催時期や内容の変更、また、緊急事態宣言に伴う臨時休館措置など、館の事業や入館状況に大きな影響を受けた年となりました。

そのような中で、感染症対策を講じたうえで、「麓」や「日本書紀」編纂1300年関連のトピック展示、戦後75年企画展、スポーツに焦点を当てた企画展など、市民の興味・関心を呼ぶ展示を開催したほか、歴史講座や工作教室や出前講座などを実施しました。

薩摩国分寺跡史跡公園、横岡古墳公園については園内巡回や樹木剪定、除草、施設等の美化に努めました。

各種事業の変更・中止があったものの、年間を通して多くの事業を展開しましたが、入館者数は5,036人となり、前年比32.0%の減となりました。

(4) 薩摩川内市川内まごころ文学館

令和元年度末から令和2年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた事業の中止や開催時期や内容の変更、また、緊急事態宣言に伴う臨時休館措置など、館の事業や入館状況に大きな影響を受けた年となりました。

そのような中で、感染症対策を講じたうえで、「改造」出版100年を記念した特別企画展を令和元年度末から継続して開催したほか、「まぼろしの東京オリンピック」に焦点を当てたトピック展示、年度末には、50年以上の歴史に幕を閉じる川内文化ホールの緞帳の原画など、郷土ゆかりの芸術家たちの資料を紹介する特別企画展などを開催しました。また、例年好評のまごころ文芸講座、名作シネマ上映会、まごころ児童絵画展などを実施しました。

各種事業の変更・中止があったものの、年間を通して多くの事業を展開しましたが、入館者数は5,512人となり前年比35.7%の減となりました。

(5) 薩摩川内市寺山いこいの広場

施設内の設備や遊具などの安全管理に努めるとともに、シルバー人材センターを活用しながら、花壇の管理や公園内の草刈等を実施し、利用者に親しまれる公園づくりに努めました。また、寺山レストランやゴーカートとの連携を図り集客に努めました。

当該施設が、野外をメインとする施設であり、三密を避けることができることから、施設利用者数は134,378人で、前年比8.5%の増となりました。

(6) 薩摩川内市せんだい宇宙館

企画展「火星・木星・土星展」は予定どおり開催したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、寺山こどもの日フェスタや寺山秋まつりといったメインイベントの中止、またペルセウス座流星群観察会をはじめとする各観察会では、入館制限を行ったこと等が影響し、入館者数は前年比20.6%減の9,027人となりました。

(7) 各種公園緑地等の管理

各種公園緑地等については、設備、遊具、樹木、芝、雑草の状態等の点検を日常的に実施して、受託施設の維持・補修を実施しました。

また、公園の大木等については、計画的に剪定を実施しました。更に、継続的管理が必要な施設については、従来どおりシルバー人材センターを活用しました。

(8) 体育施設の管理

体育施設の利用状況は、サンアリーナせんだいの利用実績が126,288人で、前年比53.5%、144,936人の大幅な減少となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う大会自粛等が大きな一因です。

なお、総合運動公園全体の利用者数は、かごしま国体の中止、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う大会自粛等が影響し、228,953人の利用となり、前年比189,500人の大幅な減少となりました。

また、御陵下公園施設及び屋外運動場照明施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う大会自粛等があり、25.9%減少し、53,767人となりました。

(9) 薩摩川内市立中央図書館の運営

薩摩川内市立中央図書館の平日・土曜・休日の運営、貸出、返本受付のほか、おはなし会や映画会、教養講座などを実施し集客に努めました。

令和2年度の図書館利用者数は、平日昼間が31,321人、土曜・休日が24,713人、夜間が13,474人、合計で69,508人となり、前年比29.3%の減となりました。

これら施設の管理運営のための直接経費として、493,120,166 円を支出しました。

2 芸術文化・スポーツ振興事業

本社の設立当初から、川内文化ホール等を活用した芸術文化振興事業をとおし、市民への芸術・文化事業の鑑賞の機会を提供し、市民文化の高揚を図って参りました。

しかし、薩摩川内市教育委員会との共催による川内文化ホールエンディング事業として、当初予定していた天孫降臨を題材とする市民参加型ミュージカル「天孫降臨～神々の秘密～」を8月に中止決定し、事業の変更を行いました。

新たに川内文化ホール閉館記念事業として「シネマ無料上映会」、「さよならコンサート」、「林家たい平の会 落語講演会」の3つの事業を実施しました。

芸術文化振興事業費では、6,019,865 円の事業経費に対し、215,800 円の入場料収益を加えて、市から補助予定額 6,000,000 円の交付を受けていましたが、195,935 円を精算返納しました。

3 いきいき生涯学習事業

音楽・ダンスに親しみ活動している幅広い年代のアマチュアの団体や個人を対象に、川内文化ホールステージでの発表機会を提供し、その育成と文化の振興に寄与することを目的に、例年開催している「サマーミュージックフェスティバル in 薩摩川内」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画を募集し公社 HP 上に掲載する形で実施しました。出演者は5組14人でした。

また、サンアリーナせんだいにおいて、スポーツ振興を目的とした「まちづくり公社杯ソフトバレーボール大会」も中止としました。

その他、各管理施設等において、創作体験として「夏休み書道教室」、「パステル画体験」、「日本茶講座」、「フラワーアレンジメント教室」、工作教室として「糸つむぎ」などの生涯学習事業を実施しました。

以上、生涯学習関連の自主事業経費は、2,142,998 円となりました。

4 花と緑のまちづくり事業

総合運動公園、泰平寺公園・前向公園などで除草、花壇やプランターの花苗の植栽、管理まで実施していただいたボランティア団体の活動を支援し、環境美化に努めました。

5 キラキラ寺山事業

寺山の各施設が連携しながら、寺山いこいの広場全体の利用拡大に努めました。せんだい宇宙館では、宇宙・天体に興味を持ってもらうため、市民星空観望会、流星群観察会、夏休み科学工作等の催しを実施して学習、集客に努めました。

また、市教育委員会及び少年自然の家事業とも連携協力し、市内の小学校等に出

向いての出張観望会、工作教室等を実施しました。

6 サービス事業

受託施設への公衆電話の設置や各管理施設でのコピーサービスなど施設利用者の利便を図りました。

7 広報宣伝事業

会社の自主事業や管理施設での行事予定、また事業結果等について、公社広報誌「アクスタイム」、南日本新聞折り込みチラシ「南日本家庭メモ」の裏面活用による「アクスタイム情報」、公社ホームページ、SNS等による広報宣伝を実施しました。

また、薩摩川内市の広報紙「広報薩摩川内」、新聞、FM さつませんたい、各種情報誌を活用し情報発信に努めました。

8 まちづくり交流事業

ボランティア団体等の活動拠点として川内文化ホールに設置された、「まちづくり交流センター」を運営するとともに、公社ホームページ内に交流センター登録団体の紹介ページを設けてボランティア活動への参加を呼びかけました。

利用者数は延べ29人、前年比19.4%の減となりました。

II 収益事業

販売事業

施設利用者等の利便を図るため、サンアリーナせんたい売店経営ほか、せんたい宇宙館でのグッズ販売、管理施設に清涼飲料水等の自動販売機を設置運営し、その収益については公益目的事業を実施するための財源として活用しました。

自動販売機の設置管理事業・売店事業では、7,989,006円の収益に対して経費が6,831,053円となり、1,155,553円の黒字となりました。

III 事務局

事務局の管理運営

事務局の運営については、川内文化ホール閉館に伴い、2月から東郷支所内に事務所を移転し、本会社の事業活動の要として、その円滑な実施のための事務を執行しました。

終わりに

本公社では、これまで生涯学習・芸術文化・スポーツ振興等に係る公益目的事業を推進するため、市と連携しながら市民の皆様へ生涯学習の機会や質の高い芸術文化・スポーツに触れる機会を提供するとともに、施設の利活用を図って参りました。

これまで、公社はもとより、芸術文化の拠点施設でありました「川内文化ホール」が、令和2年度末に閉館したことに伴う今後の新たな芸術文化の発信方策の検討のほか、指定管理受託施設に係る人件費の運営補助金化による経営への影響の最小化の取組を行いつつ、今後も市民のニーズへの積極的な対応とともに、「安全・安心・快適」なサービスを提供し、更に市民の皆様にご喜ばれる事業を実施するなど市民福祉の向上に努めて参ります。